

1500Mでは吉川が個人優勝!

絶対
スゴイ



The image shows a tall, vertical sign with large, bold characters. The top section contains the characters '金' (Kinkō) and '周' (Shū) in a yellow font with a thick blue outline. Below this, the characters '休' (Kyuū) and '休' (Kyuū) are also in yellow with a blue outline. The bottom section features the number '4' in a large yellow font with a blue outline, followed by two stylized yellow shapes resembling feet or hands.

10月19日～20日にかけて、長野県南牧村の帝産アイススケートトレーニングセンターで、第36回日本学生ショートトラック選手権大会が開催された。2大会振りの総合優勝を目指して部員一丸となって出場した。

初日の1500Mでは、吉川（経営4年）が予選から好調の滑り出しで余力を残して決勝まで進んだ。真木（経営4年）もこの波に乗りたかったが、あと一步及ばず準決勝で姿を消してしまった。決勝で吉川は、序盤後方で様子を伺い、中盤から徐々に順位を上げ先頭に立ち、そのままトップでゴール。2年振りにこの種目で、初優勝を飾った。「最後の年に良い先輩の姿を見せられて良かった。」とコメントのとおり、素晴らしいレースであった。

続く500Mではこの種目を得意とする坂本（経営3年）に期待を寄せる。準々決勝までは無難に勝ち上がり、勝負の準決勝では強化指定選手を相手に結果敢に攻めたが、あと一步及ばず敗退となるもタイムで5位に入った。

過去にも優勝経験のあるリレーでは海外試合経験選手が豊富な神奈川大学と阪南大学、総合力の山梨学院大学に続き、初日は総合4位となつた。吉川が予選を突破したが、次が続けず、予選敗退となつてしまつた。迎える決

勝では、序盤を温存しながら、途中で体力を使い果たし、5位に終わった。1000Mでは坂本が予選から順位に勝ち上がり、決勝まで駒を進められた。難波（経営4年）と木村（経営1年）も、力走したが一步及ばず、予選と準々決勝で敗退してしまった。決勝では、スタートで前方の位置をキープし良い展開だったが、先頭へ仕掛ける際に転倒してしまい、4位に終わってしまった。寒兵力としては優勝できる組合せだった。だけに、非常に残念な結果であった。この時点でも3位の山梨学院に逆転は不可能になり4位が確定したが、最後の500Mリレーでも懸命に滑走路を鋭く走り、その姿は悔しい気持ちの表れと感じられるものであった。

来年度に向け、部員一人一人が個人の欠点と向き合い、技術や体力等を鍛え個の力を上げる事により、総合優勝が見えてくるだろう。今後のアイススケート部に期待したい。



今大会では、総合4位とい
う結果に終わってしまい悔し
い思いをしました、次年度は
もう一度優勝するため、部員
一同頑張つて参りますので、
応援宜しくお願ひします。

VOICE 部員

発刊：大阪経済大学
スポーツ文化振興室



私は今回のインカレに最上級生として臨みました。今年一年休学し、国外で生活を送りました。競技に専念したこともあり、最後の日本インカレにかける気持ちは誰よりも強かつたと思います。個人戦では納得のいく結果を出せましたが、リレーにおいて最上級生として後輩を力バーしきる実力が伴わず私にとって最初で最後の表彰台落ちになり、悔しい気持ちはあります。が後輩たちがリベンジしてくれると信じています。